



Rotary

ロータリーは  
機会の扉を開く

Rotary Opens Opportunities



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 渡 邊 有 規

幹 事 田 原 聖

会報・雑誌委員長 伊藤 繁幸

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2909号 2021年5月25日(晴れ) 第35回例会 会員数117名

## ハイブリッド例会

点 鐘 渡邊 有規会長  
司 会 副SAA 伴(誠) 会員

◇ロータリーソング「我等の生業」

※マスクを着用し、心の中で斉唱

◇本日のランチ 持ち帰り弁当



ビジター紹介 倉井会長エレクト

◇一般社団法人 栃木県医師会

会長 稲野 秀孝 様 (卓話講師)  
事務局 徳原 容之 様

## 会長挨拶

渡邊(有) 会長

皆様、こんにちは。本日もオンラインと会場で開催しております。よろしくお願ひいたします。

先日の5月22日、23日、大船渡に、太城パストガバナー、山中社会奉仕委員長、飯泉社会奉仕副委員長、床井プログラム委員長、そして、田原幹事と私の6名で行って参りました。3年間続けた大船渡の花見プロジェクトで、大船渡の13箇所の公園や街路樹に160本を超える桜を植えました。いろいろお話を聞いて、お互いの心が通じ合うロータリアンらしい奉仕活動だったと、大変に感動いたしました。一番港に近い場所に、夢海(ゆめみ)公園があります。シンボルの茶々丸パーク時計塔が津波によって壊され、時計の針が津波の時刻で止まっています。その公園の芝生の周りに桜を植えさせていただきました。時計塔の隣には、大船渡西ロータリークラブと宇都宮東ロータリークラブの花見プロジェクトの記念碑を創ることになっています。大船渡市長ともご挨拶いたしました。その模様は、市長も私もフェイスブックにあげておりますので、ご覧下さい。「東日本大震災からの復興 10年の軌跡、未来への継承」という本を作ったそうです。6月1日の例会で、3年間の大船渡の活動の報告を企画し、その中で、

濱守パストガバナーにズームでの出席をお願いしたところ、「是非、来たい」とのことで、大船渡からいらっしゃいます。楽しみにしてください。

また、本日は、栃木県医師会の会長、稲野秀孝先生にお越しいただきました。実は、高校時代、倉井会長エレクト、私と同級生でした。校庭をラグビーで走り回っていたのが印象的です。知性と体力と兼ねそなえた方で、色々な見地からお話いただけたと思います。併せて、先日の5月10日(月)に、森本ガバナーと共に、新型コロナワクチンの接種支援金として2550地区からの目録をお渡しいたしましたことをご報告いたします。



## 幹事報告

田原幹事

◇新たに4名の人会者を迎えますので、ご報告いたします。入会式は6月15日の予定です。

◇本日例会終了後、蓬萊の間にて渡邊年度第13回臨時理事会開催。



## 委員会報告

関副委員長

◇スマイルボックス委員会

若井 勲 会員

市内10クラブゴルフで準優勝しました。

◇出席委員会

原委員長

&lt;皆出席表彰・4月分&gt;

連続26年 片山 幸志 会員

連続11年 松山 栄 会員

通算11年 入江 武 会員

連続10年 黒澤 佳樹 会員

連続 9年 塚越 淳史 会員

通算 1年 橋本 統 会員



## 卓 話

### 「コロナ禍と栃木の医療」

一般社団法人 栃木県医師会  
会長 稲野秀孝 様



皆さん、こんにちは。本日は、お時間をいただきありがとうございます。また、過日は森本ガバナーや渡邊有規会長にも県の医師会までお出でいただき、2550地区からの支援金500万円の目録をいただきました。各群市の医師会のワクチン接種に利用させていただいております。ご厚意ありがとうございます。今日はスライドを見ながらお話いたします。1枚目はタイトルですが、「分断のウイルスコロナ禍と栃木の医療」としました。皆さんの中で風邪と同じと思っている人がいましたら、改めて貰わなければなりません。新型コロナには優しい顔と怖い顔の二面性があります。優しい顔というのは、無症状の人やかかっても軽い人がいます。怖い顔というのは、特に今、変異株もそうなのですが、人によってはあっという間に重症化してしまいます。亡くなっている方も多く、非常に手強い相手です。

#### ・世界の新型コロナウイルス感染症発生状況

世界では1億6千万人を超える感染者と34万人を超える死者がいます。いずれもトップはアメリカで、次にインドやブラジルが続きます。

#### ・日本国内の新型コロナウイルス感染症発生状況

8月に第2波、1月をピークに第3波、現在が第4波と一般にいわれています。緊急事態宣言は今回を含めて3回出ています。波はだんだん高くなり、3波と4波が同じ位、また、3波と4波の間隔が狭まっていることがわかります。3波と4波のどちらが高いかというと、地域によって違います。一日に出た最高の発生患者数の観点で見ますと、47都道府県のうち33は第4波の方が超えています。栃木県は、第3波のようになってはいけなと、いろいろな対策をして県民の力で踏みとどまっているのが現状だと思います。

#### ・栃木県内の新型コロナウイルス感染症発生状況

最初の発生が2020年2月22日です。緊急事態宣言があり、5月中旬から1ヶ月位はほとんど出なかったのですが、6月の末に少し出て、そこから増えてき

て第2波となります。歌舞伎町がエピセンターと言われていますが、繁華街から出てきて、若い人から高齢者に、都市部から近郊に広がったのが第2波でした。第3波は、年末年始に寒さとともにウイルスが活性化し、市中にもかなり蔓延し、正月明けに爆発しました。170人が最多数です。クラスターが病院や介護施設で起こり、千人位の方が入院出来ず、ある意味では医療崩壊、という状況にありました。そして、1月14日、緊急事態宣言に追加されました。そこから数が減り、2月7日、いち早く解除されました。栃木県は非常に反応性が良いのだと思います。第3波の解除後は、モニタリング検査や介護施設の職員の検査など、積極的に検査を行ないました。栃木県のPCRの検査数は、人口当たりでは、かなり多い方です。第4波は変異株によるものと言われていています。栃木県でも約半数位が変異株になったと言われていています。大阪ですと、ほとんど、90%以上が変異株です。インド型が相当手強いだろう、ということで、課題として、いかにインド型を増やさないかということです。

#### ・ノーベル賞受賞者からの提言

コロナに関しては毎日テレビで報道され、いろいろな有識者も話をしているのですが、4人の日本のノーベル賞受賞者(医学・生理学賞を受賞大隅良典氏、大村智氏、本庶佑氏、山中伸弥氏)からの提言を出させていただきました。1番目に、医療機関と医療従事者を支援して崩壊を防いで欲しい。2番目に、これは広島県のホームページからのもので、広島県は大規模なPCR検査を広島市と福山市を中心に行なっているので、PCRを拡大することが目立って書かれています。3番目は、ワクチンや治療薬について、国としてきちんと進めて欲しいということです。4番目に、産学連携の支援ということで、民間の力を使うことだ、と言っています。5番目は、科学者の勧告を政策に反映できる長期展望に立った制度を確立するという事です。

#### ・変異型ウイルスにはより強い対策を

これは、山中伸弥先生の情報発信のサイトからです。どなたでもみることが出来ます。今問題となっている変異ウイルスがどのようなものか、大変わかりやすい図(シーソーの図)になっています。「従来型のウイルス」には「対策」の方が勝って収束に向かっていきますが、「変異型ウイルス」、この時点ではイギリス型だと思いましたが、同じ「対策」をしていたのでは、ウイルスの方が勝ってしまいます。さらに強い対策、或いはワクチン、そういった何らかのことが必要になってきます。また、昨年3月か4月に、先生が素晴らしいことをテレビで言っておりまして、書かせていただきました。先生がおっしゃっていたことは、ロックダウン、PCR検査、軽症者隔離施設、補償、研究



開発の5つです。日本の緊急事態宣言よりは少し強い意味でのロックダウンが初期に必要なだろうと考えていたと思います。同時にPCR 検査の普及、尚且つそこで陽性になった無症状軽症者を隔離する、そして重要なのは、社会を動かしていくための経済に対していち早い補償が必要、最後に研究・開発で、ワクチンや治療薬をきちんと国として作るべきだとおっしゃっています。

#### ・新型コロナとの闘いを乗り越えるオールとちぎ宣言

タイトルの中に、分断のウイルスと入れましたが、新型コロナウイルスはいろいろな形で社会を分断させます。もっとも顕著なのは感染者・感染者の家族と感染していない人との分断。医療従事者への偏見、誹謗中傷等が大変おきやすいウイルスです。ことによるとワクチンでもおきてしまうこともあります。どうしても出来ない方もいますので、ワクチンによって分断がないように、しっかりしていかなければならないと思います。8月21日に知事をはじめ、市町のトップの方に、「新型コロナとの闘いを乗り越えるオールとちぎ宣言」を出していただきました。皆様も我々も、こういうことがあってはならない、ということがわかるのではないかと思います。

#### ・政治・行政（自治体）

これは私が作ったポンチ絵です。「COVID-19感染拡大は医療、経済、社会に強い影響を与えた。3者は政治・行政の制度下（規制・支援等）にあるが、COVID-19によりその関係性はより密接になった。COVID-19自体も国の指定感染症であり、厚生省の管轄下で検査、診療、ワクチン接種等が行われている。」という事実をつけて作りました。図の補足説明をさせていただきます。

—医療（提供体制・保健所）もともと指定感染症は保健所が担うべきものですが、結核も少なくなり、病気も変わってきて、保健所機能は衰えてきました。そういつた中で、この病気が蔓延しました。よく、医療崩壊という言葉をお聞きになると思いますが、そこで、病床使用率という言葉も聞くとお思います。60%、50%を超えると危ないとか、大阪は100%超えているとか、今、栃木県では40%前後かとお思います。病床使用率とは、コロナの患者さんに使っている病床数が分子にきて、分母は確保病床になります。この確保病床は2種類あり、一つは、すぐにコロナの患者さんに使える即応病床です。もう一つは準備病床です。用意は出来るが、その時は、他の患者さんに出て行って貰わなければいけない、手術は延期しなければいけない、そういう病床です。栃木

県は、即応病床と準備病床の割合は現実的には1対1です。今、40%の病床利用率ということは、即応病床だけでみると80%なのです。パーセントと現実には開きがある、ということです。ですから、大阪の100%超えているというのとはとんでもないことです。家で酸素を吸っている、入院する場がない、これは大変な事態だと思います。また、病床さえ用意出来れば良いかという人が必要です。医者や看護師等、急には出てきません。大切なのは人材です。別の見方をすれば、病床数にこだわるのではなく、病床の回転が大事です。

—経済（グローバル・地域・業界）ウイルスはグローバル化した社会の中で生まれてきたものだと思います。今はそれを止めて、検疫、水際対策をしっかりしなければいけない、特にインド株についてはまだまだ水際対策が甘いので、しっかりしなければいけないと言えそうです。よく、ハンマー（緊急事態宣言）&ダンス（経済活動）と言われていますが、ハンマーをどのようにたたか、強く叩くか、弱く叩いて何度も叩くか、そういったことが取り沙汰されております。ワクチンについては、全体の最適化を考えてもらいたいと思います。ワクチンを打つ我々や高齢者の情報、意見を吸い上げる仕組みがないといけませんが、それが不足しているのではないかと考えます。

—社会（暮らし・環境・教育）やはり、将来に向けての社会を作っていかなければなりません。新しい生活様式とか、いろいろなことが言われています。デジタル化、共生社会、多様化社会など。実際にそういったものを構築していかなければならないし、自治体や政治や行政を動かして、皆で作っていくものだと思います。また、このポンチ絵には書いていませんが、重要な役割を果たしているのがマスコミです。健全なマスコミの報道、マスコミに惑わされない我々の姿勢、そういったものも大切なのではないかと思います。

これからワクチン接種が加速化してできるように、県の行政と一緒に医師会も頑張っ参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

